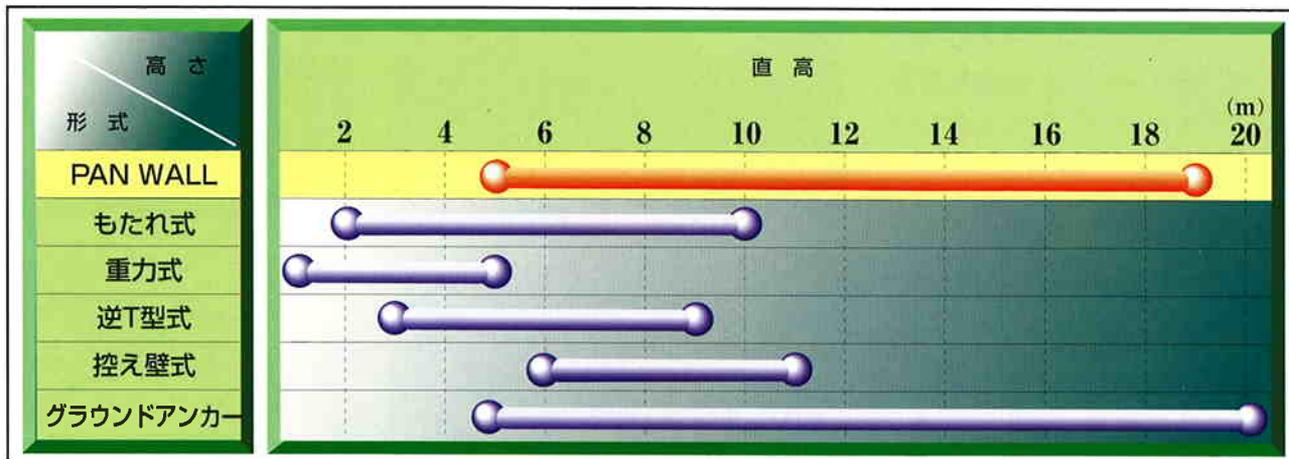


# 他工法との比較

## 土留め構造物の適用範囲



## 工法比較 (優←→劣)

工法名称	PAN WALL	もたれ式擁壁	グラウンドアンカー
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補強材を地山に挿入することにより引張力・せん断力を補強する。</li> <li>●コンクリート板を固定して、地山の崩壊防止と表面保護の効果を付加する。</li> <li>●コンクリート板の採用により美観、施工性を向上させている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●重力式擁壁が自立できない状態になった構造で、地山に支えられて自重により土圧に抵抗する。</li> <li>●基礎地盤が良好な場合に適用可能(許容支持力30tf/㎡以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地中基岩部にPC鋼材等を定着させ、法面表面の受圧板を介して緊張力を与え、斜面を押さえつける。</li> <li>●比較的大きなスベリ破壊に対して抑止効果がある。</li> </ul>
工法概略 (断面形状)			
適用性	◎ 砂質土～軟岩まで幅広く適用可能。小崩壊も発生しにくい。但し、軟弱粘性土には不向き。	△ 切土施工時における安定確保が難しい。掘削断面が大きくなる。	◎ ほとんどの土質に適用可能であるが、施工中の小崩壊に対して不安がある。
安全性	◎ 高所作業や、法面崩壊の危険性も少ない。	○ 構造物の信頼性が高いが、施工中高所作業、法面崩壊の危険がある。	○ 工法の信頼性は最も高い。逆巻きの場合は、高所作業がほとんど発生しない。
施工性	◎ 簡易なサイクル作業で省力化・工期短縮が図れる。	△ 在来工法であり、施工性に問題は少ないが、軽体工事で型枠工の比重が高い。	○ 実績も豊富であり、施工性についての問題もない。
経済性	○ 補強材打設コストが大きい。アンカーほどではない。	◎ 型枠工、足場工の量が多いが、比較的経済的。	△ アンカー打設のコストがかなり大きい。
美観	○ 化粧板の使用で、景観対応がしやすい。	△ コンクリート打放し、または、現場打化粧型枠。	△ 表面工は、コンクリート受圧板、または、法枠が一般的。